

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 事例と意見の関係をおさえて読み、考えたことを伝え合おう（提案しよう、言葉とわたしたち）

2 単元指導計画

次	時	主な学習内容
1	1	「2年生にキラキラ言葉・行動を広める提案をする」という学習の見通しをもつことができる。
2	2	提案するために、説得力のある理由を明確にすることができる。
	3	説得力をもたせるために必要な資料を決め、準備することができる。
	4	体験や分かりやすい事実を伝えるとよいことに気付き、構成メモを作成することができる。
	5	「問いかけ」や「呼びかけ」を使って、スピーチ練習をすることができる。
	6	「ポインティング機能」を使って、指し示しながらスピーチ練習をすることができる。
3	7	学習した「ポインティング機能」を使って、説得力のある提案をすることができる。

3 本時について（6/7）

(1) ねらい

サンプルスピーチを比較することを通して、聞き手をより説得するためには、資料を適切な場面で提示し、工夫して説明するとよいことに気付き、自分の伝えたいことを伝えるために、意図をもって資料を適切な場面で提示し、「ポインティング機能」を使ったり資料を拡大したりしながらスピーチ練習をすることができる。

（思考力、判断力、表現力等 A話すこと・聞くこと（1）ウ）

(2) 評価規準

話し手の意図をはっきりさせ、資料を指し示したり拡大したりしながらスピーチ練習をしている。

（思考・判断・表現 A）

(3) 学習展開

過程	学習活動	教師の指導・援助（留意点）
導入	<p>1 単元を貫く課題と本時の位置を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を基に、単元の出口で「2年生の子たちにキラキラ言葉・行動を広めるための提案をする」ことを確認する。 <p>2 サンプルスピーチ①と、サンプルスピーチ②の映像を見る。</p> <p>3 学習課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の位置を学習計画表で確認し、学習の内容や単元を貫く言語活動、相手や目的を確かめる。 「はじめ・・・ピンク」「中・・・黄色」「終わり・・・水色」という色のシートや、プリントを使うことで、構成を視覚的に捉えられるようにする。
展開	<p>資料を効果的に使うポイントを見つけ、説得力のあるスピーチの練習をしよう。</p> <p>4 サンプルスピーチ②の映像を見て、よさを考え、ポイントをまとめる。（個→全体）</p>	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大型提示装置を使って、全体で2つのサンプルスピーチを見て、比較できるようにする。
	<p>自分が伝えたい理由に合うところで資料に注目させると、聞き手に分かりやすく伝わる。</p> <p>5 スピーチ練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一番伝えたいことを伝えるために、資料にどのように着目させるか考え、構成メモに記入する。 個人でスピーチ練習をしたり、互いのスピーチにアドバイスをし合ったりする。（個→課題別グループ→全体→個） 「僕は、『ありがとう』と言われると嬉しい人がたくさんいるというアンケート結果に注目してほしいです。だから、グラフの部分を拡大し、指し示しながら話します。」 <p>6 本時を振り返り、次時への課題をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ポイントを1つに絞り、板書に位置付けることで、スピーチのポイントを意識して練習できるようにする。 <p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面録画機能を使い、スピーチの音声を録音したシートを、協働学習支援ツール上に提出し、音声言語の交流がしやすいようにする。
終末	<p>今日の授業では、スピーチをするときに、理由に合うところで資料に注目させる「ポインティング機能」を使うと、より説得力をもたせられると分かった。〇〇さんから、指し示すときに数字を囲むとよいと教えてもらい、取り入れたら、より分かりやすくなった。次も「ポインティング機能」を使って、2年生に分かりやすくスピーチしたい。</p>	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働学習支援ツールの「生徒間通信」を使い、アドバイスをしたり、認め合ったりするよう指示する。 <p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> スピーチを録音し、協働学習支援ツール上で比較することで、表現力の高まりを実感できるようにする。